

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473701470
法人名	株式会社 サンライフ
事業所名	グループホーム サンライフ青葉
訪問調査日	2015年9月17日
評価確定日	2015年10月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473701470	事業の開始年月日	平成18年3月3日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	株式会社 サンライフ			
事業所名	グループホーム サンライフ青葉			
所在地	(227-0032) 横浜市青葉区成合町443-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年9月6日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・介護職員の資質向上のため、研修等に積極的に参加する
- ・近隣の交流、家族との交流を深める為、運営推進会議を積極的に実施する
- ・利用者の健康維持の為、感染症防止対策を積極的に行う
- ・利用者保護の為、各委員会を設置する
- ・様々な記録管理を厳密に行う
- ・火災訓練などを積極的に実施する

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年9月16日	評価機関 評価決定日	平成27年10月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホームサンライフ青葉の経営は株式会社サンライフです。同法人は横須賀市にもグループホームとデイサービスを展開しています。企業理念の「サンシャイン・オブ・ライフ」を掲げ、太陽の様に明るく、暖かく、輝きのある生活。を踏まえて、事業所の理念「すべての利用者が楽しく安全で安心した時間を過ごせるようスタッフ全員で努力します」が作成されています。立地は東急田園都市線「青葉台駅」から、東急バス「桐蔭学園」行きに乗り約10分、「常盤橋」から徒歩5分程の住宅地に位置しています。近くには古くからの農村の風景を残す「寺家のふるさと村」やのどかな田園風景が広がり、落ち着いた環境に囲まれています。

●ケアについては、家族・医師・看護師・職員で連携を取りながら、利用者の思いを第一に考え、事業所の理念「すべての利用者が楽しく安全で安心した時間を過ごせる」に沿って、本人の思いを極力を叶えられるように努め、支援を実践しています。また、利用者の人権に関わる身体拘束や個人情報保護に関しては委員会を立ち上げており、グループホーム連絡会・市の研修会に積極的に参加し、事業所内研修やミーティングでフィードバックする等、職員に周知しています。

●地域との関わりにおいては、町内会には加入していませんが、連合町内会長が運営推進会議に参加してくれており、地域の情報発信や行事のお誘い等、良好な関係を築けています。また、事業所の外に設置してある看板に手書きで行事を知らせたり、今年新たに設置した火災ベルについてのお知らせをする等、事業所の情報を地域の方々に発信しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サンライフ青葉
ユニット名	1 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に挨拶を心掛け、散歩等では、いつでも遊びにいらして下さいとの声掛けをし、消防訓練時には、お声をかけさせて頂き、参加をお願いし協力体制をつくりあげています。	企業理念を踏まえ、事業所の理念「すべての利用者が楽しく安全で安心した時間を過ごせるようスタッフ全員で努力します」を玄関に掲示しています。利用者の思いを第一に、家族・医師・看護師・職員が連携を取りながら理念に沿った支援を実践しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催し、地域の御意見など頂き、出来る事は、参加させていただいている。	町内会には加入していませんが、運営推進会議にも参加していただいている連合町内会長から地域のイベントのお誘いや、事業所の前に設置している看板に行事を書いて知らせたり、散歩の道中に出会った方々と挨拶を交わしたり、事業所の畑に草刈の手伝いに来て下さっている方もいます。また、近隣の事業所にも声かけして、行事にお誘いしています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1度地域の方々に向けに認知症についての勉強会を開催を始めました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告など悪い事も伝え、改善方法なども話し合うようにしています。行事等のお手伝いなども申し出て下さるようになり、お互いに良い関係が出来ています。	2ヶ月に1回開催しています。メンバーは地域包括センター職員、民生委員、連合町内会長、利用者家族に参加いただき、現状報告や地域の情報、イベントのお誘い、避難訓練を行った際に消防から受けたアドバイスで設置した火災ベルについての報告を行いました。また、民生委員の方にグループホームの理解を深めてもらう為に議題に挙げて話し、民生委員の方発信で地域の方にもグループホームに対する理解を深めていただくように取り組んでいます。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は、迅速にしています。生活保護者の受け入れもしているのので、密に連絡をとるようにしています。	市や区の担当者とは迅速な連絡や報告に努め、困難事例が生じた場合の相談や研修など連絡を取り合っています。生活保護者の受け入れも行っているのので、区の担当者とも連携を図っています。横浜市のグループホーム連絡会にも参加し、他事業所や市の担当者とも情報交換を積極的に行い、質の向上に努めています。また、地域包括センター職員とも月1回以上は連絡を取り合っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、現在していません。自由に入出入り出来る状況です。ベッドからの転落が心配な方も柵ではなく低床にして自由に動ける体制です。	身体拘束防止委員会があり、月ごとに実施している研修会やミーティングでも拘束をすることによって生じる弊害等について話すと共に、勉強会を行い職員に周知しています。また、玄関やユニット出入り口の扉は施錠は行わず、職員同士で声を掛けあい見守りで対応しています。ベッドからの転落が心配な方については、柵を設置するのではなく低床のマットレスを使用することで、拘束防止及び事故防止に努めています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修には、必ず参加をして、研修報告をしてもらい、行かなかった職員も勉強する機会を設けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の課題の1つです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時説明し質問する機会があり入居時にも丁寧な説明を心掛けています。また、分からない事があれば、随時説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の御意見は、直ぐに職員に伝え反映するようにしています。また、推進会議において、地域の御意見など聞き取り入れております。	家族からの意見要望については、来訪時や毎月の請求書に手紙を同封して意見の聴取に努めています。運営推進会議でも、事業所の近況報告や活動報告の際に家族からの質疑応答の時間を設け、意見の聞き取りを行っています。いただいた意見については迅速に対応するよう努め、結果を報告しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議を開催し職員に対して上申出来る環境作りをしています。さらにユニットリーダーは、職員意見ノートを作成し運営に活用しています。	毎月のユニット会議で業務に関する意見やケアの中で気づいたヒヤリハットについても話し合い提案を出してもらおうようにしています。管理者や職員間においても、日頃から気軽に意見を言いやすい環境が構築されており、必要に応じてユニット会議で議題として採りあげ運営に反映させています。また、勤務時間についても職員の事情に合わせた勤務体制を設けることで、働きやすい環境作りに努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を習得したり、研修参加、経験年数等見える物での説明で給与アップなどの配慮があります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設置し、個人レッスンを含め研修参加しやすい環境作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、意見交換したり、お誘いしたり、されたりし交流をはかっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人一人が関わりコミュニケーションをとり、本人の気持ちを分かろうとし、信頼関係を築くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも、密に連絡をとり、小さな事も伝え信頼関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに行き、事前に少しでも情報を得て、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家に居た時と同じように、家事の仕事、畑の仕事、日課にしていた散歩などを一緒にして、お互い様有難うの気持ちで接しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外でも協力を依頼したりして一緒にケアをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、馴染みの場所、馴染みの方など会いに行ったり、来て頂いたりしています、	利用者の馴染みの場所や人間関係については、入居時の面談などで把握に努めています。日々のケアの中で本人から得られた情報は個人記録に記載し、情報を共有しています。馴染みの場所や馴染の人に会いに行く場合は家族対応をお願いしていますが、近所の人や馴染みの方も訪問しやすいような、雰囲気作りを心がけています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	雑談の際には、必ず職員が入り、橋渡しのような事をして、関わり合うようにしています。また、気の合う方同志は、お部屋を行き来したりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もお見舞い、面会など行き、ご家族様などとも手紙のやり取りをしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室で1対1でゆっくりとした中で話をすると色々聞けるので、その時の話などを記録におとしてカンファレンスで話し合うようにしています。	家族・利用者から得られた以前の生活歴や会話の中で聞いた言葉を、個人ファイルに記録し、カンファレンスで話し合いを行っています。また、表情や仕草から利用者の希望や意向の把握に努め、一人一人の思いに沿ったケアが行われています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などご家族から聞き取り、役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人違うので睡眠状況や昨日の状況など、記録と申し送りで把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の御意向やカンファレンスを開き、作成しています。	入所時のアセスメントで得られた情報、利用者の日ごとの生活の様子を踏まえてミーティングを行います。全職員にADL表を配り、個々の職員がモニタリングした物を用いてカンファレンスで話し合いケアプランを作成しています。また、家族からの意見・要望に関しては、毎月の請求書に同封して手紙や来訪時、ケアプラン更新時にも聞いています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とアセスメントシート、排泄表、入浴表、業務日誌全てを活用し活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にご家族等と面会時などに話をし、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味を継続していただくようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ドクターから言われ、議家族に伝え、ご家族の希望に合わせています。	入居時にかかりつけ医の有無の確認を行い、利用者・家族の要望に沿った形で受診が受けられるよう支援しています。内科医、歯科医の往診が週1回あります。専門医以外は提携医であるたちばな台病院での受診を受けています。また、緊急時には医師、看護師に指示を仰ぎ適切な医療支援が受けられる体制が整っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が健康チェックをして、ご入居者様が看護師に相談出来るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2週間に1度の往診の際には、連絡を密にし、早期発見の早期治療を心がけ万が一入院になってしまった場合は、お見舞いに行きつつその都度看護師、意思、ケアワーカー様と情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期については、行っていません。終末期に近い状態になったと医師に言われたら、ご家族、医師、職員と十分な話し合いの元にその方にあった方針を立てています。	入居時に家族に看取りを行っていないことを説明しています。医師から終末期に近いとの判断が出された段階で、家族、医師、職員で話し合い、病院又は特養の紹介など、事業所としての可能な範囲で支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在の所、訓練などは、行っていませんが急変時の対応は、日々の生活で身につけています。また、緊急の時などの手順は、文書にて、事務所内に掲示しており、ミーティングの際も確認しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、防災訓練を定期的に行い、地域の方への声掛けをして、一緒に訓練に参加していただいております。	年間で4回の防災訓練を実施しています。鴨志田消防の方立会いの下、消火器の取り扱い、避難誘導等についての講習会、昼夜を想定した訓練を実施しています。訓練時に消防の方からのアドバイスで火災ベルを設置したことで、地域住民の方にも応援要請をしやすくなりました。備蓄品として水、食料、ガスコンロ等を用意してあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には常に、自分が言われて嫌な事、して欲しくない事は、しないように伝えていきます。職員も気をつけて対応しています。	管理者は「自分が言われて嫌なこと、してほしくないことなし」ということを、カンファレンスの都度職員に話しています。事業所内に個人情報保護委員会を設置し、接遇研修でも人格の尊重やプライバシーの重要性について伝え、人格やプライバシーを損ねないよう配慮した対応に努めています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも自己決定できるように、選択肢していただくように心がけています。また、表情の観察も心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたい、お風呂に入りたいなど、言われた時は、意向に添う様に対処しています。ちょっと待って、早くの言葉は、使わないように職員には、伝えていきます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧している方は、そのままそれが支援できるように、声掛けをしています。洋服も選んで着ていただいております。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様個々が出来る事をして頂いております。出来ない方々には、材料選びなどどこかで関わって頂くようにしています。	朝昼は職員がメニューを考え調理していますが、夜は業者委託の物を調理しています。事業所の畑で栽培している季節野菜の収穫や下ごしらえ、下膳配膳などについては積極的に利用者の方に手伝ってもらっています。食事の形態については、個々の体調に配慮した食事を提供し、各々のペースに合わせ、職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配の栄養を考えた食材1日のうち1食とり、残りの2食は、それを参考に考え提供しております。水分量、制限のある方などは、医師の指示にしたがっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ご口腔ケアをしております。歯科医が毎週往診に来ているので、口腔管理は、できています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をもとにカンファレンスの時に職員などの意見を聞き個々にあった支援をしております。	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンの把握に努め、時間やタイミングを見計らったトイレ誘導で支援しています。オムツやリハパンの利用は極力控え、トイレで自立排泄が出来るよう支援しています。誘導の際の声かけも、利用者によって使い分け等の工夫が行われています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操などし、水分制限の無い方には水分を多目にとって頂いたりして予防に努めています。便秘になってしまった時は、医師と連携し下剤などの対応もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	2日おきに声掛けさせて頂きますが、嫌な時は無理強い、しないで気持ちよく入れるように支援しております。	週2回の入浴を基本としています。入浴は清潔保持だけでなく、身体の状態を把握する大事な役割もあり、利用者の体調や気分に合わせて入浴してもらうように支援しています。季節によっては、ゆずや菖蒲等で入浴を楽しめるよう工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースを乱さないようにその方が休みたい時に休んでいただくように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導が入っているため、常に薬剤師さんにアドバイスを頂いております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を把握し、趣味を継続できるように支援しています。また、やる気であるように、感謝の言葉を伝えたり、褒めたりしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、散歩、1日1回は、外の空気に触れていただくように心がけています。遠出を望まれる際は、ご家族の協力を元を実施しております。	事業所の周辺は田んぼや神社など散歩に適した環境にあり、天気の良い日には散歩や外気浴などで日光に当たっていただき、天気が悪い日でもベランダに出て外気に触れてもらうように心掛けています。遠出を希望される方には、家族にも協力していただきながら外出支援を実施しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた時は、自分で支払いをして頂く様にしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も随時して頂いております。手紙もご本人が出来る方は、やり取りされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感は、日々の生活で会話等で認識して頂いたり、壁紙、カレンダー作りで季節など認識して頂いております。	共有空間は食卓が2つとソファーが配置され、大きなベランダの窓は採光がよく、明るく見晴らしの良い空間になっています。手作りカレンダーや季節に合わせた花や装飾が施され、季節感を感じれるようになっています。また、職員が読まなくなった雑誌、漫画、小説が置かれ、利用者が退屈しないよう工夫されています。キッチン、事務室からも居間全体が見渡せる造りになっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーの位置に気をつけて、見えないような配慮に努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の物を数多く持ってきて頂いて、個々にあった居室作りをしています。	居室にはエアコン、クローゼットが備品として完備されていますが、その他の備品については家庭で使い慣れた家具や家族写真等の思い出の品を自由に持ち込んでもらうように伝えています。ベッドでの就寝に慣れていない方には低床マットを使用してもらうなど、一人ひとりに合った居室作りに努めています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、自由に行き来してもらい、職員は見守りを重視しております。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
サンライフ青葉

作成日

平成27年9月17日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	34	急変時や事故発生時の対応方法について、理解を深める必要がある	救急時の処置、対応について、全職員が把握する	<ul style="list-style-type: none"> ・救急法の講習 ・看護職員からの講習 	
2		男性入居者様が増えて来たので、レクの方法を考える必要がある	入居者全員が楽しめるレクリエーションを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・レクの講習会へ参加 ・研修資料の活用 	
3	8	成年後見人をつけている入居者様が増えている為制度についての理解を深める必要がある	全職員が制度について理解をする	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の開催 ・研修参加者の資料の活用 報告会の開催 	
4	36	入居者様への言葉遣いプライバシーへの配慮がかけてきている	プライバシーが守られ全職員が入居者様に対して尊敬の念を持って接する	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー、尊厳とは何か再確認をする ・気がついたときに職員同士で注意を仕合う 	

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	サンライフ青葉
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に挨拶を心掛け、散歩等では、いつでも遊びにいらして下さいとの声掛けをし、消防訓練時には、お声をかけさせて頂き参加をお願いし協力体制をつくりあげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催し、地域の御意見など頂き、出来る事は、参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1度地域の方方に向けて認知症についての勉強会を開催を始めました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告など悪い事も伝え、改善方法なども話し合うようにしています。行事等のお手伝いなども申し出て下さるようになり、お互いに良い関係が出来ています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は、迅速にしています。生活保護者の受け入れもしているので、密に連絡をとるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、現在していません。自由に入出入り出来る状況です。 ベッドからの立ち上がり、転倒が心配の利用者様に対して柵をするのではなく、フットコールや訪室で、対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には必ず参加をし、報告をしてもらっています。又、日々の生活の中でも虐待になるのではと感じたら、話し合いを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の課題の1つです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時説明し質問する機会があり入居時にも丁寧な説明を心掛けています。また、分からない事があれば、随時説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の御意見は、直ぐに職員に伝え反映するようにしています。また、推進会議において、地域の御意見など聞き取り入れております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議を開催し職員に対して上申出来る環境作りをしています。さらにユニットリーダーは、職員意見ノートを作成し運営に活用しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を習得したり、研修参加、経験年数等見える物での説明で給与アップなどの配慮があります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設置し、個人レッスンを含め研修参加しやすい環境作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、意見交換したり、お誘いしたり、されたりし交流をはかっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大切にし、職員と会話をしやすい環境を作っています。会話や行動にて不安なこと等察知し、対応するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも、密に連絡をとり、小さな事も伝え信頼関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに行き、事前に少しでも情報を得ています。情報を職員と共有し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は極力やっています。利用者さまそれぞれ、好きな事得意なことがありますので、教えていただいたりと、いつも感謝の気持ちを伝えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外でも協力を依頼したりして一緒にケアをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、外出をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係は、職員が間に入り会話をされている状況です。家事や、制作作業等と同じ作業をして頂いたり、関わりを持てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もお見舞い、面会など行き、ご家族様などとも手紙のやり取りをしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なかなか本音を言ってもらえない利用者様には、色々やっている中での表情や言動で思っている事を把握するよう努めています。気がついたことは記録に載せ情報を共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などご家族から聞き取り、役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、生活のリズムは違うためその時々々に臨機応変に対応し記録しています。特変事項は記録、日誌に落とし特に気をつけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の御意向やカンファレンスを開き、作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とアセスメントシート、排泄表、入浴表、業務日誌全てを活用し活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様面会時には、近況を報告したり、要望を聴いたりし柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味を継続していただくようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ドクターから言われ、議家族に伝え、ご家族の希望に合わせています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が健康チェックをして、ご入居者様が看護師に相談出来るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2週間に1度の往診の際には、連絡を密にし、早期発見の早期治療を心がけ万が一入院になってしまった場合は、お見舞いに行きつつその都度看護師、意思、ケアワーカー様と情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期については、行っていません。終末期に近い状態になったと医師に言われたら、ご家族、医師、職員と十分な話し合いの元にその方にあつた方針を立てています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在の所、訓練などは、行っていませんが急変時の対応は、日々の生活で身につけています。また、緊急の時などの手順は、文書にて、事務所内に掲示しており、ミーティングの際も確認しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、防災訓練を定期的に行い、地域の方への声掛けをして、一緒に訓練に参加していただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には常に、自分が言われて嫌な事、して欲しく無い事は、しないように伝えています。職員も気をつけて対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも自己決定できるように、選択肢していただくように心がけています。また、表情の観察も心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の要望はその都度対応し、我慢をさせる事のないようにしています。すぐに対応出来ないときは、理由をちゃんと伝え、我慢ではなく理解して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性利用者様には、ひげ剃りの声掛けをしています。嫌な時は無理はさせず、無精ひげもおしゃれの一つと話をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様個々が出来る事をして頂いております。出来ない方々には、材料選びなどどこかで関わって頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配の栄養を考えた食材1日のうち1食とり、残りの2食は、それを参考に考え提供しております。水分量、制限のある方などは、医師の指示にしたがっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ご口腔ケアをしております。歯科医が毎週往診に来ているので、口腔管理は、できています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をもとにカンファレンスの時に職員などの意見を聞き個々にあった支援をしております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操などし、水分制限の無い方には水分を多目にとって頂いたりして予防に努めています。便秘になってしまった時は、医師と連携し下剤などの対応もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	2日おきに声掛けさせて頂きますが、嫌な時は無理強いし、しないで気持ちよく入れるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースを乱さないようにその方が休みたい時に休んでいただくように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導が入っているため、常に薬剤師さんにアドバイスを頂いております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を把握し、得意なことをやって頂いています。頼み方にも気をつけ、頼られていると感じていただける声かけをしています。感謝の言葉を伝えたり、褒めたりすることもしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、散歩、1日1回は、外の空気に触れていただくように心がけています。遠出を望まれる際は、ご家族の協力を元に実施しております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた時は、自分で支払いをして頂く様にしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も随時して頂いております。手紙もご本人が出来る方は、やり取りされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感は、日々の生活で会話等で認識して頂いたり、壁紙、カレンダー作りで季節など認識して頂いております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間では独りになれるところはありませんが、ソファではくつろげるようにしています。好きな場所で過ごせるよう自由に生活出来る様になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の物を数多く持ってきて頂いて、個々にあった居室作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、自由に行き来してもらい、職員は見守りを重視しております。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
サンライフ青葉

作成日

平成27年9月17日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	34	急変時や事故発生時の 対応方法について、 理解を深める必要がある	救急時の処置、対応に ついて、全職員が把握 する	<ul style="list-style-type: none"> ・救急法の講習 ・看護職員からの講習 	
2		男性入居者様が増えて 来たので、 レクの方法を考える 必要がある	入居者全員が楽しめる レクリエーションを 行う	<ul style="list-style-type: none"> ・レクの講習会へ参加 ・研修資料の活用 	
3	8	成年後見人をつけている 入居者様が増えている為 制度についての理解を 深める必要がある	全職員が制度について 理解をする	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の開催 ・研修参加者の資料の活用 報告会の開催 	
4	36	入居者様への言葉遣い プライバシーへの配慮が かけてきている	プライバシーが守られ 全職員が入居者様に対し て尊敬の念を持って接す る	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー、尊厳とは 何か再確認をする ・気がついたときに職員 同士で注意を仕合う 	

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。